



上智大学短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

平成29年(2017年)12月11日

通信 第92号

編集・発行 上智大学短期大学部

第40回 ソフィア・ジュニア祭開催

2017年10月28日(土)、第40回ソフィア・ジュニア祭(SJ祭)が小雨の中開催された。地域の方々に多数ご来場いただき、またハロウィンイベントではたくさん子どもたちに参加いただいて、にぎやかな大学祭となった。

SJ祭実行委員長の山本恵理菜さんと学生生活専門委員で今回のSJ祭実行委員会アドバイザーの森下園教授から寄稿いただいた。

SJ祭を終えて

SJ祭実行委員長
山本恵理菜

第40回のソフィア・ジュニア祭のテーマは、“New Beginning”です。今年度から1日のみの開催となり、プログラムや模擬店等いろいろと変更することになりましたので、このテーマを掲げました。

開会式では古谷義幸秦野市長、高祖敏明上智学院理事長、山本浩学長のご挨拶をいただき、また映画『じんじん〜其の二〜』に企画・主演された大地康雄氏からもご挨拶をいただきました。その後学内での映画上映を記念した植樹が



中庭で行われました。

朝から小雨が降っていたため、期待と不安が入り混じった気持ちでSJ祭が始まりました。しかし、予想以上に多くの方にご来場いただき、ステージ企画は満席になるほど大盛況となりました。大学祭を成功のうちに終えることができ、うれしく思っています。

準備のため半年間実行委員としてともに力を合わせていただいた1・2年次生のみなさん、ここまで支えて下さった先生方、事務センターの皆様をはじめ、沢山の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

SJ祭について

SJ祭実行委員会アドバイザー
森下 園

今年度のSJ祭は、実行委員長の山本さんの記事にあるように、多くの変化や悪天候を乗り越えて実施され、節目となる40回に新たなページを開きました。例年は週末の2日間行っていたのですが、編入試験や就職活動など進路決定の時期と準備期間が重なり、SJ祭を担う2年次生の実行委員たちにかかなりの負担となっていたことを考慮して、土曜日1日開催となりました。

例年通りの企画のほか、今年度は映画『じんじん〜其の二〜』を記念して、秦野市長古谷義幸様をはじめ秦野市観光協会会長市川和雄様、企画・主演俳優の大地康雄様をお迎えしての植

樹のセレモニーが行われました。



また学修成果の公開の一環として、昨年同様ゼミ生による所属ゼミの紹介と、6月に実施されたEnglish Festaのグループによる英語でのポスター報告および質疑応答が行われました。さらに今年は、上智大学文学部新聞学科の名誉教授石川旺先生をお迎えして特別講演会「今日のメディア-受け手の側の問題点」を開催しました。詳細な資料にもとづく今日のメディアについてのご講義のあと1時間以上にわたりメディアスタディーズに関心を持つ在学生が石川先生を囲み、ゼミのように質疑応答が続きました。ご多忙のところご講演をご承諾くださった石川先生に御礼申し上げます。

悪天候にも関わらず来場くださった皆様に感謝申し上げますとともに、次年度以降はSJ祭を卒業生のホームカミングの場、教職員やクラスメートと再会できる場として卒業生の皆様のご参加を呼びかけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



浅草散策と国際学院中学校高等学校との高大接続

「浅草散策」とは、埼玉県の国際学院中学校高等学校がユネスコスクールとして11月上旬開催した国際交流週間(IFW)の行事の一環である。短期大学部学生18名が、日本を含む7か国(イタリア、スウェーデン、デンマーク、インド、マレーシア、香港)の高校生36名と国際学院の高校1・2年生と中学3年生の生徒18名をサポートした。学生と生徒合計で72名が9グループに分かれ10月30日(月)の1日、浅草を散策する活動に杉村ゼミと平野ゼミの学生が参加した。

杉村ゼミ1年 栗原里都

私は高校生2名と香港の高校生4名と活動し、会話が始めるまでに時間がかかった。自分から話しかけ、うまく会話がかわみ合わないこともあったが、同世代ということもあり、特に食べ物についての会話は簡単に盛り上がった。一方で、電車に乗る際に切符の買い方、どこの改

札から出るのかが難しく、駅で会った外国の観光客も同じだった。香港の高校生と活動し、日本と似た文化があるように感じ、充実した時間を過ごせた。

平野ゼミ1年 菅谷涼香

マレーシアの男子中学生4名と日本の女子高校生2名のグループで、マレーシアの生徒はイスラム教で、お祈りの時間にはお祈りをし、肉や酒は口にできないため、私たちは気を配った。肉や酒を口にしない徹底さに驚いた。理解するのに少し時間がかかったが、尊重すべき大切なことと思った。ゆっくり話すように求めると、聞き取りやすく話してくれた。だが自身の英語力の低さを痛感した。高校生と留学生の距離が縮まらず、高校生から「何を話していいかわからない」、「話すことがない」と言われ、話題の提供や英語で表現の手助けをした。全て伝えてしまう容易さ、会話を促す難しさ、サポートの難しさを感じ、自分たちの役割を理解した。



国際学院中学校高等学校と本学の「高大接続」は、2014年に遡る。両校の教職員の交流が始まり、2015年5月には中学3年生12名が本学の授業に参加、10月には中学2年生2名が本学で英語でプレゼンをする等の教育活動を展開。2016年8月には同校の教員が本学で開催された協議および合同研修に参加、2017年1月には杉村美佳准教授とゼミの学生15名が訪問。高校2年生24名とゼミ生とで構成するグループに分かれ「パーム油の話」から国際理解教育活動を行う。2017年8月に高大接続協議および合同研修が本学で開催。

(高大接続担当 平野幸治教授)

FACULTY VOICE

サバティカル(研究休暇)を終えて

英語科准教授 飯田 純也

教員最後のサバティカルの機会を得ることができた。期間は2017年度春学期の約6ヵ月間。研究テーマに選んだのは演劇研究の視点からギリシャ悲劇、英詩研究の視点からダンテ、ヨーロッパ思想研究の視点からオランダ絵画である。

■ シラクーサのギリシャ演劇

毎年、イタリアのシラクーサのギリシャ劇場で古典作品の上演がある。2017年度の公演演目は三大悲劇詩人のアイスキュロスとエウリピデスの悲劇とアリストパネスの喜劇の合計3作品。アリストパネスの喜劇の舞台はペロポネソス戦争の洞中にあったアテネ。主人公は詩人の不在を嘆き、死者の国を訪れ、エウリピデスを連れ帰る予定だったが、結局アイスキュロスを連れ帰ることになったという物語。では、アリストパネスはなぜ詩人の声の不在を嘆いたのか。

ギリシャ人は好戦的であった。この特徴はゲームを生み出したが、文学を生み出したわけではない。スパルタが典型的である。軍事最優先の都市国家に文学は生まれなかった。文学が開花するのはアテネだけ。アテネの劇作家は敗者の視線から戦争の悲惨を訴える。ギリシャが戦ったトロイア戦争では、トロイア側への感情移入を通して戦争の残虐性を描く(エウリピデス『トロイアの女』)。ペルシア戦争でさえ、ペルシア側の、いわば敗者の視点を通して戦争の無情を描く(アイスキュロス『ペルシアの人々』)。ギリシャ悲劇の意義は、戦争を当然視する常識を背景にして、常識の再考を迫るところにある。この意義があるからこそギリシャ悲劇はいまでも繰り返し上演される。

■ フリードリッヒ二世とダンテ

世界の詩人が尊敬するダンテも歴史上の勝者で



パレルモのノルマン王宮のモザイクの意匠の中にはイスラムやビザンチンの影響を感じ取ることが出来る。フリードリッヒ二世はここで幼少時代を過ごした。(ノルマン王宮にて筆者撮影)

はなく敗者の側に立ち、戦争の悲劇を訴えた。中世ヨーロッパの覇者はローマ教皇であった。ペトロの後継者として天国と地獄の鍵が与えられた者であると信じられた教皇は、この権威を利用し、世俗の権力を従え、十字軍を唱導した。そしてルネッサンス、教皇権の絶頂を象徴するのがシスターナ聖堂の『最後の審判』(注目はペトロの2つの鍵)である。

ダンテの死者の世界の描き方はミケランジェロと違う。死者の世界は芸術が描ける世界ではない。それは自然の力で生成する世界。ダンテは天国と地獄の間に煉獄を加えただけではない。ダンテは、とりなす側ととりなされる側に徳があれば、異教徒であれ、教皇に破門された者であれ、天国にとりなされると考えた。その中で注目しなければならぬのが神聖ローマ皇帝フリードリッヒ二世である。シチリアのノルマン王朝の多文化主義政策を引き継ぎ、自身アラビア語を含む6カ国語を話す皇帝は、十字軍に参戦したとき、戦わ



フリードリッヒ二世の墓の上にはツリーリストが手向けたバラの花束が置かれていた。(パレルモ大聖堂にて筆者撮影)

ずエルサレム奪還に成功した。教皇はこの快挙を喜ばなかった。十字軍の目的は異教徒の改宗か抹殺であり、異教徒との共存は選択肢にはなかった。結局、教皇はフリードリッヒと彼の息子マンフレードの破門を繰り返した。

『神曲』ではフリードリッヒが地獄、マンフレードが煉獄、そしてフリードリッヒの母コスタツァが天国に配置される。父と同罪でありながらマンフレードは煉獄にとりなされている。とりなしにより生成する死者の世界。天国の聖人さえ誰が救済されるのか知らない。ダンテの天国は人々の内面性が徐々に露になり形成される。勝者が必ずしも勝者ではなく、敗者が必ずしも敗者ではない。

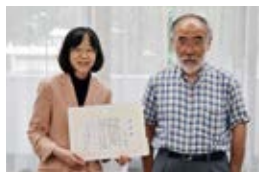
■ ボヘミアのフェルメール

17世紀オランダの画家フェルメールには芸術家と思われる人物が構図の中に登場する作品が2点ある。ドレスデンのThe ProcuressとウィーンのThe Art of Painting。オランダの風俗画の伝統の中には見当たらない特徴である。

ルネッサンスの芸術至上主義はミケランジェロに代表されるが、見過ごしてならないのが逆に芸術に対する自然の優位性を掲げたティツィアーノである。私の仮説ではフェルメールはこのイタリア人画家に影響を受けた。ティツィアーノが強調するのが内面性である。芸術に値する自然は内面性の中にある。フェルメールがティツィアーノに付け加えたのが音楽である。フェルメールは内面性を音楽性と言い換え、上記の作品の構図の1/3を絨毯で埋め1/4をカーテンで覆った。フェルメールは権力ではなく自由に仕える芸術を継承したのである。

グッドティーチング賞授与式

2017年9月11日(月)、本学教育への多大な貢献への感謝とその榮譽を称え、山本学長より、森下 園教授に2016年度グッド・ティーチング賞が授与された。グッドティーチング賞は、本学の教員の更なる授業法の改善や教育力の向上および教育の活性化を図ることを目的として教育実践に顕著な成果をあげた教員に贈られる賞である。森下教授が、日頃の真摯な研究活動を教育に還元し、学生の理解を深める教授法を磨いてきたことが評価された。



English Café Luncheon : Lunch or luncheon?

What is the difference between a lunch and a luncheon (pronounced LUNCHin)? According to the Merriam-Webster Collegiate Dictionary (11th edition), a luncheon is a "formal usually midday meal as part of a meeting or for entertaining guests," while the Collins Dictionary of the English Language (2010) notes that luncheon is just another word for a lunch and adds that it is "often a formal one." Here on campus, when we say "English Café Luncheon," it means an informal occasion to use English outside the classroom while enjoying lunchtime with friends and teachers. On Tuesday, November 7, 2017, English Café Luncheon was held in one section of the school cafeteria at lunchtime. About 30 students and more than 9 faculty members participated in the event. The main part of the luncheon was simply conversing in English at the tables. A special highlight of this luncheon was the presence of two lively students from the College of Micronesia (CoM) National Campus in Pohnpei. The students shared about some differences they were finding between their country, the Federated States of Micronesia (FSM), and Japan. Both students were visiting our campus for two weeks on an exchange program organized by APIC, Association for Promotion of International Cooperation, which handles development cooperation projects in Japan.

English Café Luncheon is part of the Sophia University Junior College Division "English in Action Program" which includes a website freely accessible from the university homepage. The website has links to resources students can use to learn English outside the classroom, anytime and anywhere. This luncheon was co-sponsored by the SUJCD International Exchange Working Group. Earlier this year, in May, another talkative English Café Luncheon was held with over



50 participants. English Café Luncheons are held every year and are advertised on Loyola Web Service and by posters on campus. All students are welcome to participate as helpers or just to join in the conversation.

(Maria Lupas, Faculty Coordinator)

2018年度学費決定について

2018年度の学費が決定しました。以下のとおり改定します。

2018年度上智大学短期大学部学生納付金

単位：円

費目	新入生	在學生	摘要
入学金	260,000	-	入学時のみ
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	682,000	682,000	年額
教育充実費	199,800	180,000	年額
小計	1,201,800	922,000	
同窓会積立金	-	10,000	2年次徴収(※1)
英語力テスト受験料	9,225	3,075	1年次：年3回 2年次：年1回
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	-	保険期間2年(※2)
小計	10,625	13,075	
合計	1,212,425	935,075	

(※1) 2018年度入学者から2年次に20,000円徴収。

(※2) 学生教育研究災害傷害保険料については、当初納入した金額に対する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に徴収する。保険期間1年間800円。

ソフィア会 ルビー祝 銀祝 10月28日(土)

今年もSJ祭と同日に秦野キャンパスにて、卒業40周年をお祝いする4期生のルビー祝、25周年をお祝いする18期生の銀祝の式典を開催しました。式典に先立ち、高祖敏明上智学院理事長、第2代学長ダニエル・コリンズ神父様の司式により、聖ヨハンナ聖堂にて卒業生のための記念ミサが執り行われました。式典では山本学長より祝状授与、各期の代表、SJ祭実行委員長、ソフィア会奨学生2名からの挨拶、パーティーでは皆さんで和やかに再会を楽しんでいらっしゃいました。(詳細はHP (http://sjc-alumnae.org/) 及びFBにてご覧いただけます)

今後の予定として、19期生の銀祝は2018年5月27日(日)に四谷キャンパスで行うオールソフィアンフェスティバル(ASF)に合わせて開催します。ルビー祝は卒業後からカウントして40年となる年に合わせるため、2019年度に5期生のルビー祝を開催する予定です。



ルビー祝 4期



銀祝 18期

ルビー祝に感謝を込めて 4期 田中南欧子(Eクラス 旧姓:武井)



今日は私たち4期生のためにこのような盛大なお祝いをいただき、深く感謝申し上げます。また銀祝の皆様おめでとうございます。実は15年前銀祝の時に代表でスピーチをさせていただきましたが、この15年間はあっという間で、私の人生において激動の時代でした。一つにはまだ記憶に新しい東日本大震災がありました。私は茨城県に住んでおります。家は被害はなかったのですが、放射能の心配があり一時どこかに避難をしたと思いましたが、そして真っ先に寮のシスターにお電話をしました。するとSr.兄郎が「すぐにいらっしゃい!」と教えてくださいました。当時すでにパーキンソン病にかかり始めていた母を連れて節電で暖房の切れた寒い電車を乗り継ぎ秦野までたどりつきますと、シスターはすぐ近くのお宅を借りて準備して下さい、数日間でしたが本当に心温まるお世話になりました。今でもその時のことを思い出す度に涙が出ます。ありがとうございました。

もう一つご紹介したいことがあります。2004年に同窓会寄附講座が始まりましたが、キャリアアブラニングの講師として私にもお声をかけていただき本当に良い経験をさせていただきました。私は卒業後「東南アジア青年の船」という日本政府主催の国際交流事業に参加いたしました。それがご縁で今まで30数年間その活動のサポートをしております。仕事とは別の私のライフワークである国際交流事業について約10年間毎年のように後輩の学生の皆さんにお話をさせていただきました。授業には毎回その交流事業に参加したばかりの若い経験者に来てもらい話をしてもらいました。実は3年前に上智大学短期大学部通信を見てびっくり!私の授業を受講された短大の学生さんが日本と韓国の交流事業に応募して参加され、その経験をこの通信に

書いていただいたので、大変嬉しく思いました。その時、もうこれで私の役目は終わったなと10年務めさせていただいた講師を他の方にお譲りいたしました。ちょうどその頃子宮がんが見つかり手術を受けました。幸い今はこのように元気になりましたので皆様にも早目の検診、早目の手術をお勧めいたします。

今日ここに一緒になりたい人にもお声をかけたのですが、親御さんの介護やご自身の体調がすぐれないという方が多く残念ながら一緒にできませんでした。皆さん遠くからこの秦野の地に思いを馳せていることと思います。しかし4期生250人のうち20名も集まることができて本当に幸せです。先ほどまで受付にいらした3期生の先輩も私たちのために「会いに来たのよ!」と教えてください、本当に温かい母校を持って幸せだと思います。

昨年短期大学は姿を消しているところが多いのですが、この上智にあってはこれからも私たちが帰れるキャンパスを大事に育てていっていただきたいと思っております。そして私たち卒業生も母校のためにできることを協力して遠く離れていても力を合わせていきたいと思っております。

今年の5月にニューヨークのカーネギーホールで歌を歌ってきたのですが、私は先週お亡くなりになった亀淵友香さんというゴスペルシンガーの方が主催しているゴスペルの学校で10年以上歌を習ってきました。そして最後に亀淵さんと一緒にカーネギーホールへ行けました。公演の翌日9・11のグラウンド・ゼロを訪れた時に近くのお店で見つけたお土産のマグネットの言葉がとても素敵でしたので皆さんにお伝えしたいと思っております。

Yesterday is history, Tomorrow is mystery, Today is a gift. (エレノア・ルーズベルト) 本当に今日は皆さんとお会いできてとても嬉しく思います。またここにいらっしゃれない天国の先生方もきっと見守ってくださっていると思っております。どうもありがとうございました。

銀祝を迎えて 18期 堀井真由美(Bクラス 旧姓:柿原)



今日は卒業40周年のルビー祝、ならびに25周年の銀祝を、皆様と共に迎えられた事を本当に嬉しく、誇らしく思っております。そして、この秦野のキャンパスに戻ってきて、「帰ってきた」という懐かしい思いで一杯です。同時に、卒業してからもう25年も過ぎたという事に非常に感慨深いものを感じております。

私たちの卒業アルバムのあとがきに、小説「赤毛のアン」の引用が載せられていました。その文章は「曲がり角を曲がった先に、何かあるのかはわからないの。でも、きっと一番よいものに違いないと思うの。それにはまた、その素敵な良いところがあると思うわ。その道がどんなふうにも延びているかわからないけど…」というものでした。

まず、私にとって、上短に入学できたことは、人生における最良の選択の一つだったように思います。

そして、2年間、上短で同じ時間を過ごした私達ですが、卒業という曲がり角を曲がり、就職したり、進学したり、それぞれの道を歩んできました。

私自身この25年を振り返ると、平坦な道だけでなく、険しい道や坂道、凸凹道もありました。そして今は、卒業の時に考えもしなかった場所にいます。でも、アンの言

うように、きっとこれが私にとっての一番よい道だったと思うのです。そしてこの場所へ続く扉を開いてくれたのが、この上短であり、ここで出会った友達です。今振り返っても、上短で皆様や先生方と一緒に笑い合い、ときに、涙を流し過ぎた時間は、わずか2年間とは思えない程濃密で充実した時間でした。そしてここで得た生涯の友と呼べる親友達は、どんなときでも、離れていても、連絡を取り合い、励まし合い、刺激を与えてくれる存在でした。本当にかけがえのない大切な宝物で、心の寄りどころでもあります。そういう親友達、思い出を与えてくれた上短は、私の人生にとって、原点とも言えます。本当に感謝しています。本日ここに集まった皆様にとっても、上短で過ごした時間は、やはり特別なものだったのではないのでしょうか?是非、この後のパーティーの席で、同じ時間を過ごした皆様や先生方と、上短時代の思い出話や、卒業後歩んできた道についてゆっくりとお話させて頂ければと思っております。

本日皆様この銀祝を喜び合い、人生の原点を振り返って、そしてルビー祝を迎えられた先輩方のようにまた素敵な40周年を迎えられれば、どれほど嬉しい事かと思っております。最後になりましたが、本日このような素晴らしい場を御準備頂きました同窓会役員の皆様、そしてお忙しい中御参加頂きました先生方、本当にありがとうございました。今日参加出来なかった方々も含め、上短卒業生の皆様、先生方、御家族皆様の御多幸をお祈りし、私のご挨拶とさせていただきます。

上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)
2016年度(平成28年度) 決算報告
(2016年4月1日~2017年3月31日) 2017年3月31日現在
(単位:円)

取入	費目	金額	備考
	前年度繰越金	23,136,550	
	2016年度収入		
	同窓会費	2,150,000	2014年度入学者(2学年進学時納入分)
	総会及び銀祝参加費	208,000	銀祝、ルビー祝
	寄付金預かり	19,640	
	利息	222,869	上智学院預り金利息、普通預金利息
	雑費		
	(2016年度収入小計)	2,600,509	
	合計	25,737,059	
支出	費目	金額	備考
	長大通信送付費用	522,877	2016年度の発行及び発送
	総会及び銀祝開催費用		
	通信費	493,381	総会及び銀祝案内送付費(郵送料+発送手数料)
	その他	273,683	銀祝会場設置費、パーティー費用、祝状印刷代、記念品代など
	パーティ代返金	0	
	交通費	34,947	
	印刷費		
	同窓会役員活動費		
	活動費	0	
	交通費	54,734	役員会会場までの交通費、会合出席時の交通費
	文具及び消耗品費	198,182	封筒代、紙代、文具代、コピー代
	会議費	126,500	
	郵送料	3,333	宅配便など
	広告宣伝費	360,416	短大ソフィア会HP維持管理費、S祭パンフレット掲載費
	慶弔費	16,200	花代
	交際費	0	
	送金手数料	4,320	
	寄附金	920,640	2016年度奨学金(90万円)、バリー賞基金、災害被災者基金
	(2016年度支出小計)	3,009,213	
	次年度繰越金	22,727,846	
	合計	25,737,059	

2017年度総会、ホームカミング 5月28日(日) 四谷キャンパスにてASFに合わせて開催。元学長ハイメ・カスタンエダ神父の追悼集も行いました。詳細はHPをご覧ください。2016年度の決算報告が承認されました。

秦野たばこ祭に参加

第70回秦野たばこ祭が9月23日(土)と24日(日)の2日間にわたり開催された。両日ともに天気に恵まれた盛大なお祭りとなった。今回は第70回を記念したもので、2016年度ミスソフィア・ジュニア(ソフィア・ジュニア祭の「Miss Sophia Junior コンテスト」優勝学生)が、ミス富士山と並んでオープンカーでパレードした。



また、学生6名が秦野警察署から一日警察官を委嘱され、交通安全・防犯パレードに参加した。婦人警官の制服を着用させていただき引き締まった気持ちの学生は、パレードで交通安全や防犯の啓発チラシを配りながら、注意を呼び掛けた。

なお、秦野たばこ祭への参加は、本学と秦野市との提携による「まちづくりに関する活動」の一環としてのボランティアである。

この他、ジャンボ火起こし綱引きコンテスト運営に、SJ祭実行委員会の学生4名が携わり、特設ステージから、10月28日(土)のSJ祭について、地域の方々へご案内させていただくなど、市民の皆様と貴重な交流の機会を得ることができた。



ミクロネシア短期大学からの学生の訪問

昨年度に引き続き本学にミクロネシア短期大学の学生2名を迎えた。Destiny EtseさんとGina Segalさんが10月30日(月)に来日し、聖マリア寮に宿泊して授業のほかサービラーニング(SL)活動に参加したり、課外活動「和サークル」でお茶のお手前をしたりと本学の学生生活を体験した。休み時間には彼女たちと本学学生とが仲良くおしゃべりする姿が見られた。

休日には小田原城、箱根大名行列を見物したり、渋谷・原宿・新宿で同世代のファッションに触れたり、古き日本と現代の日本を体験した。

本学での生活について2人の学生に印象を聞いた。両名とも英語で行われる授業に出席したが、異口同音に、先生方が学生が正確に理解できるよう丁寧に教えている姿が印象的だと話した。またSL活動では本学学生と共に小学生に英語を教えた。小学生は反応が良く大きな声で元気に答え、どの国でも



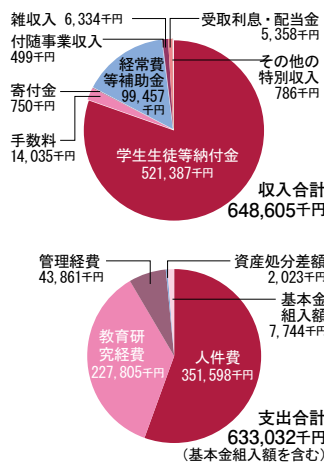
子どもの反応は同じでかわいくまた面白く感じたそうだ。二人の学生は寮での生活やさまざまな活動を通して友達ができ、楽しい学生生活を送ることができたと語った。11月16日(木)離日した。

ミクロネシア短期大学生も本学学生も共にお互いの理解を深めるよい機会となった。

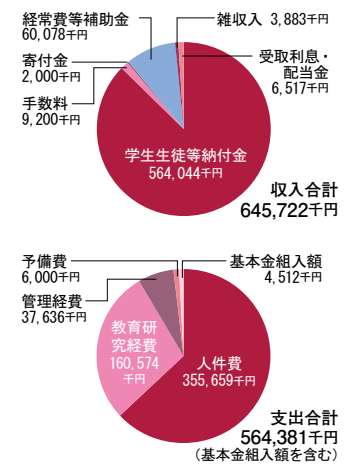
上智大学短期大学部 2016年度決算及び2017年度予算

収入の部 (単位:千円)		支出の部 (単位:千円)			
科目	2016年度決算	2017年度予算	科目	2016年度決算	2017年度予算
学生生徒等納付金	521,387	564,044	人件費	351,598	355,659
手数料	14,035	9,200	(退職給付引当金繰入額)	(△2,769)	(△688)
寄付金	750	2,000	教育研究経費	227,805	160,574
経常費等補助金	99,457	60,078	(減価償却額)	(37,449)	(37,226)
(国庫補助金)	(99,379)	(60,000)	管理経費	43,861	37,636
(地方公共団体補助金)	(78)	(78)	(減価償却額)	(7,465)	(7,454)
付随事業収入	499	0	借入金等利息	0	0
雑収入	6,334	3,883	その他の教育活動外支出	0	0
受取利息・配当金	5,358	6,517	資産処分差額	2,023	0
その他の教育活動外収入	0	0	その他の特別支出	0	0
資産売却差額	0	0	予備費		6,000
その他の特別収入	786	0	支出合計	625,288	559,869
(施設設備寄付金)	(750)	(0)	基本金組入前当年度収支差額	23,318	85,853
(現物寄付)	(36)	(0)	基本金組入額合計	△7,744	△4,512
収入合計	648,605	645,722	当年収支差額	15,574	81,341

図Ⅰ 2016年度事業活動収支決算



図Ⅱ 2017年度事業活動収支予算



入試日程のご案内

上智大学短期大学部の教育は、キリスト教ヒューマンズムに基づいた教育の精神である「他者のために、他者とともに(Men and Women for Others, with Others)」の精神を国際社会において実践することのできる英語発信力と国際性(Global Competency)の涵養を目指しています。受験生の皆様には、本学での学びを進路の一つとしてご検討いただければ幸いです。2018年度より新たに、国際バカロレア(International Baccalaureate)教育プログラムにおける科目履修を活用した「国際バカロレア(IB)科目履修A~C特別入試」を導入しました。詳しくは入試要項をご確認ください。

今後実施する入試制度は右記のとおりです。

大学案内・入学願書のご請求は、本学HPトップページのテレメールをご利用ください。

上智大学短期大学部HP



種別	募集人数	出願期間	試験日
一般入試 A 日程	55	1月4日(木)~1月19日(金)(消印有効) 1月22日(月)~1月25日(木)(短大窓口受付)	2月1日(木)
一般入試(国語・英語基礎学力測定型)	10	1月4日(木)~1月19日(金)(消印有効) 1月22日(月)~1月25日(木)(短大窓口受付)	2月2日(金)
一般入試 B 日程	25	2月1日(木)~2月16日(金)(消印有効) 2月19日(月)~2月21日(水)(窓口受付) ^(注1)	2月23日(金)
一般入試 C 日程	15	2月23日(金)~3月2日(金)(消印有効) 3月5日(月)・3月6日(火)(窓口受付) ^(注1)	3月8日(木)
第3期 A O	5	1月4日(木)~3月13日(火) a~fの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)
適性検査型特別	3	1月29日(月)~3月2日(金) A~ウの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)
TEAP・英検等利用型 C 特別	5	1月4日(木)~3月13日(火) I~Ⅹの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)
国際バカロレア(IB)科目履修 C 特別	2	2月13日(火)~2月16日(金)(消印有効)	2月22日(木)

(注1) 一般入試B・C日程は、上智大学短期大学部(秦野キャンパス)と、上智大学入学センター(四谷キャンパス)の2ヶ所で窓口受付を行います。

(注2) 第3期AO入試(a~f)・適性検査型特別入試(A~ウ)・TEAP・英検等利用型C特別入試(I~Ⅹ)の日程の詳細は本学ホームページでご確認ください。